

商工会議所青年部と社会福祉協議会との 連携・協働事業について



黒部商工会議所青年部

【きっかけ】 平成27年10月頃……

黒部商工会議所青年部 = 黒部YEG (略称)

黒部市社会福祉協議会 = 社協 (略称)

黒部YEGの課題……

「地域貢献として、地域に何かできることはないだろうか……」

社協の課題……

「様々な課題はあるが……制度の狭間があり、支援が困難なケースがある……」

「地域の高齢化が進み……見守り役が必要だが、担い手が少なく……」



黒部商工会議所青年部

しかし、そう簡単に進まず・・・課題は山積み状態・・・

それぞれの団体でも協議し、又合同会議も進捗しつつ・・・

平成28年度 黒部YEG

地域サービス創出事業

「黒部YEGなんでも屋」スタート！

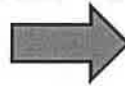


12/16 合同視察研修「石川県能美市」



・のみ商業協同組合 ・能美市商工女性まちづくり研究会

・・・少しずつカタチが見え始めてきた・・・



黒部YEGが出来そうな活動

- ・ゴミの撤去
- ・プレハブの設置・電気の配線
- ・プレハブの撤去
- ・屋根の修理
- ・窓・扉の修理
- ・畳の搬入
- ・障子戸の設置
- ・玄関扉鍵の取り付け
- ・電化製品の搬入・処分

etc



黒部商工会議所青年部

まずは、出来ることから実践しよう！

<支援事業>

目的: 支援が必要な高齢者や障害者が、どのような支援を求めているかを知り、実際に支援する事で、黒部商工会議所青年部が地域の皆さんのお役に立つ事と、地域のための活動を行っている事を知っていただく事を目的に支援事業を実施

生活困窮者の困りごと

社協からの
情報をもとに

【お墓掃除】



【部屋掃除・片づけ】



この活動にて・・・生活困窮者にも変化が・・・

A（弟）氏は、脳出血で入院中の兄の退院の日が迫っているが、兄弟の家では住める状態ではない事を分かりつつも、制度の狭間にあり、公的な支援は受けられない。（障がい者ではなく高齢者でもないため入れる施設はない・頼れる親族もない・近隣住民とも交流がない）



その後、環境や状況が変化すると・・・

- 兄：
- ・退院し自宅に住むことができた。安心した様子が見られた。
 - ・要支援1のサービス調整で生活ができるようになった。
- 弟：
- ・表情が穏やかになった。
 - ・挨拶するようになった。（敬語で話すようになった。）
 - ・ゴミを溜めずに町内のゴミ出し日に捨てるようになった。
 - ・仕事を探したい、働いて好きなものを買いたいと思うようになった。



黒部商工会議所青年部

その後、新たな連携も・・・



近所の方々も一緒にボランティアに参加



もしも、これから・・・
自分たち（YEG）が動く事で
地域の方々も、巻き込んで、一緒に行
動が出来るようになったら・・・

今回関わった人
YEG
・たたみ屋さん
・ガラス屋さん
・塗装屋さん
・大工さん

etc

平成29年度 黒部YEG 支援活動(地域貢献)研修会の実施

<目的>

自立支援の難しい高齢者や障害者の現状を知り、青年部として社会問題に取り組みきっかけを作る事を目的とする。

研修会では黒部の高齢者や、障害者の方々の実態を実例を交えながら黒部市社会福祉協議会の皆様より説明頂き、知識や情報を得た。



その後、更なる活動を行う(事例:4件)
(高齢者宅・生活困窮者宅等)

※会議内容資料は別紙



黒部商工会議所青年部

～社協との連携・協働の中での 今後の課題(方向性)～

- ・生活困窮者の実態把握と次世代リーダーの活躍の場づくり
- ・異業種のご厚意を大切に・・・

住民や地域の困りごとに活かせる仕組みづくり



黒部YEGの今後の動き

- ① 市民が快適な暮らしができるまでのアンケート調査活動
- ② 黒部市社会福祉協議会との連携強化(活動範囲拡大)



黒部商工会議所青年部



ご静聴ありがとうございました



黒部商工会議所青年部

【別紙資料】 会議内容資料

<設問①>

あなたの近所（地区）で（高齢者や障害者）が抱えている問題は。

<回答>

- ・本人だけでは運転できず、買い物に行けない。（公共交通機関が少なく）
- ・雪が降ると体力がなく、除雪が出来ない。（季節的要因）
- ・毎日の食事の準備が出来ない。出来ないことが多くイライラが募る。
- ・一人暮らしの世帯が多い。
- ・交通機関が少ない。
- ・運転したくても出来ない。
- ・周囲と関わりを立っている人がいる。
- ・普段何をしているのか分からない。
- ・△△地区に関しては店がなく、宅配サービスも出来ない。
(壮年会も無い状態)
- ・〇〇地区に関しては病院もなく、店も2～3件と少ない。
- ・高齢者は車の運転が危ない。
- ・引きこもりの方もいるなか、空き家が多い。
- ・除雪の問題もある。
- ・深夜徘徊する高齢者がいる。
- ・一人では買い物に行けない。
- ・孤独化（横の繋がりが減ってきている）
- ・病気になった時世話してくれる人がいない。

<設問②>

その問題に対して「黒部商工会議所青年部」として何が出来ますか。

<回答>

- ・買い物に行きたいときに買い物に連れて行ってあげられる工夫が必要。
(買い物バスを運行して地域の方々にチラシを配り情報を発信する)
- ・除雪隊の運営協力
- ・悩み相談（地域の方々と一緒に作業する）

例：子供達と一緒に触れ合う機会を作る。（駄菓子屋、動物と触れ合う機会）

地域のお年寄りが楽しめる場を提供するなど

- ・現状を知る事が大事ではないか。（情報の収集）
- ・予算があれば何らかの支援は出来るのでは。
- ・いろいろな職種があるのでボランティアでの家屋の点検など出来るのでは。
- ・社協さんと協定を結び予算を市からもらって支援してはどうか。
- ・まずは、情報や事例を知る事でこれから何が出来るのか考えていくべきでは。
- ・除雪や弁当配達は支援できるのでは。
- ・空き家のチェックは出来るのでは。
- ・人が集まるイベントを考える。
- ・意識付け（黒部社会福祉協議会と黒部商工会議所青年が一緒になって考える）
- ・聞く機会を設ける。（当事者が何を求めているか）

<設問①>

支援事業に参加した、感想をお聞かせ下さい。

<回答>

<良かった>

- ・地域の社会問題を身近に感じる事が出来た。
- ・高齢者一人暮らしの問題が多いと思った。
- ・高齢者には出来ない仕事が出来た事。
- ・自分達の技術が困っている人のために役立てられて良かった。
- ・地域の困っている人の声を直に聞いた。
- ・プロの会員の技術力に感動した。
- ・技術で地域に還元する事は良いことだと思います。
- ・現状を知る事が出来、とても喜んでもらった。
- ・喜んでもらえて良かった。
- ・人助けが出来て、喜んでもらった。
- ・日頃参加出来ない、地域貢献に関わる事が出来ました。
- ・市民の方から感謝の言葉が聞けた事。YEG のあり方を見ることが出来た。

<課題があるように思える>

- ・事業前に現場調査しておけば良かった。
- ・作業出来る人が限られるので手待ちがあった。
- ・特定の専門技術を持つ方に負担が大きそうだった。
- ・思った以上に大変だった。仕事と変わらない。

<設問②>

次に支援物資を提供した点について、感想をお聞かせ下さい。

<回答>

<良かった>

- ・衣類やこたつぶとんを提供したら、大変喜んでもらった。
- ・喜んで頂けたことが良かった。
- ・支援を受けられた方が、喜んで頂けたことが良かった。
- ・何より支援を受けたご本人が一番喜んでおられた。
- ・こたつぶとんが喜んでもらった。

<課題があるように思える>

- ・支援物資を提供している場面を見ていなかったので良く分かりません。
- ・どのような声があったのか、聞きたいです。

<設問③>

参加されなかった方々のご意見をお聞かせ下さい。

<回答>

- ・お互いにとってより良いように、継続していければよいと思います。
- ・日程が合わず参加出来なかった。次年度参加するにあたって、より良い事業になればと思います。
- ・日程が合わず参加出来なかった。